



東京YMCA

2013 12月号

発行所 公益財団法人東京YMCA 135-0016 東京都江東区東陽2-2-20 発行人 廣田光司 電話 03-3615-5562

URL <http://tokyo.ymca.or.jp>

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体の全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

Merry Christmas

「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。

その名はインマヌエルと呼ばれる。」

この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

（新約聖書『マタイによる福音書』1章23節）

神は共にいる

子どもたちのエピソードから



堀 光雄 牧師

日本キリスト教団 秦野教会 牧師／東京YMCA山中家族キャンプのチャプレンとして、20年にわたり活躍されている。

今年もクリスマスを迎えます。西洋のお祭りと言われた時代もありましたが、いまや俳句の季語にまでなるほどポピュラーです。それにつれ、我々の生活の周辺にクリスマスに関わるエピソードを聞くことがありま

す。今、私は教会附属の幼児施設の責任者も兼ねています。その関係で耳にしたエピソードを2つご紹介します。キリスト教の幼稚園や保育園では、クリスマスの礼拝と共に、ページェントを

演じます。子どもたちがイエス・キリストの誕生に関わる出来事を演じるのですが、11月頃から練習を始めます。我が幼稚園でも練習の真っ最中で、この原稿を書く傍らで子どもたちの歌うクリスマス・キャロルが聞こえてきます。

ページェントは新約聖書の「マタイによる福音書」と「ルカによる福音書」に記された降誕の物語から場面が設定されています。乙女マリアへの受胎の告知から始まって、東方の博士の来訪までいくつかの場面がありますが、その中にベツレヘムでの宿探しがあります。皇帝アウグストウスの命令によりヨセフとマリアはベツレヘム旅行をするのですが、この場面でも、大抵2人の訪れる宿は3つとされています。最初の2つの宿では断られ、3つめで馬小屋を借りることになります。

余談になりますが、ページェントでは、宿屋が3つと、東方からの博士の人数が3人という事になっています。

し、その子どもががんばって練習しようです。いろいろの苦労がありました。クリスマス当日を迎え、ページェントが披露されました。最初の宿屋の場面になり、その子は何とか教えられた役をこなしました。でも、ヨセフとマリアの夫婦が背を向けて立ち去りかけた時、彼は叫ぶように言ったそうです。「ダメ、行かないで。お願い、僕の所にいて。お願い、泊まっていて」と。彼の心の中に何があったか分かりません。でも、自分が隣人を拒絶することにあまりかねて受け入れようと懇願する彼の行動は、彼の人間としての素直な叫びだったのだと思います。

今では、クリスマスのお祝いは、キリスト教の施設だけでなく、いろいろの場所で行われるようになっています。公立の幼児施設でも、それから仏教の施設でも、「クリスマス会」と称して行われます。現代のクリスマスでは、主人公はイエス・キリストではなくなっているようです。それより、クリスマスに必要な存在はサンタ・クロースです。そして彼の届けてくれる「クリスマス・プレゼント」です。子どもたちは、サンタのプレゼントを待ち焦がれています。それを手にするために、一生懸命励みます。よい子がもらえると言われてよい子になるようがんばります。

版画：渡辺貞雄 キリストと子ども
（新約聖書「マルコによる福音書」10章13～16節より）

え、その子どもががんばって練習しようです。いろいろの苦労がありました。クリスマス当日を迎え、ページェントが披露されました。最初の宿屋の場面になり、その子は何とか教えられた役をこなしました。でも、ヨセフとマリアの夫婦が背を向けて立ち去りかけた時、彼は叫ぶように言ったそうです。「ダメ、行かないで。お願い、僕の所にいて。お願い、泊まっていて」と。彼の心の中に何があったか分かりません。でも、自分が隣人を拒絶することにあまりかねて受け入れようと懇願する彼の行動は、彼の人間としての素直な叫びだったのだと思います。

今では、クリスマスのお祝いは、キリスト教の施設だけでなく、いろいろの場所で行われるようになっています。公立の幼児施設でも、それから仏教の施設でも、「クリスマス会」と称して行われます。現代のクリスマスでは、主人公はイエス・キリストではなくなっているようです。それより、クリスマスに必要な存在はサンタ・クロースです。そして彼の届けてくれる「クリスマス・プレゼント」です。子どもたちは、サンタのプレゼントを待ち焦がれています。それを手にするために、一生懸命励みます。よい子がもらえると言われてよい子になるようがんばります。

さて、2つ、幼児施設に関わるクリスマスエピソードを紹介しました。2つ目は、キリスト教以外の施設の話です。牧師のメッセージとして適当かどうか分かりませんが、しかし、クリスマスに関わるエピソードです。クリスマスは、出来事の意味はイエスの存在に於いては、「神は我々と共にいます」ということです。イエス・キリストの存在に於いて、人間の生活の全ての中に神は我々と共に居て下さるのです。これは真実です。

クリスマスにおいて、人の真実、誠実、愛、共存、希望、あらゆる人間の命を支える言動の中には間違いなく「神、我々と共にいます」と言えます。そしてそれは、人間未来の希望であります。全ての人にクリスマスの祝福がありますように！

た。クリスマス会の当日になりサンタがやってきました。みんなプレゼントをもらうことになりました。彼の順になった時、彼は涙を浮かべて言いました。「ぼく、良い子でなかったからもらえませんが、もらっちゃいけないんだ」と。少し考えてからサンタが言いました。「おまえは正直じゃな、神様も仏様も正直な者が好きなんだ。きつと赦してもらえるよ」。そう言っ

赤三角

山中湖センタ―は豊かな木々に囲まれている。石割山から見下ろすと、湖畔にいか所だけ深い緑がある。そこがYMCAである。かつては湖畔すべてが緑だったはずだが、今はこだけのだ▼最も多い木はハルニレとケヤキ、最も高い木はカラマツ、最も大きい木はコゴメヤナギである。幹周りが3mを超える「巨木」は数本あるが、その内の1本がコゴメヤナギ。幹周りが約3.5mある。山中キャンプ開設のはるか前からそこに立っていたと考えられる▼コゴメヤナギは初夏、白い綿毛の種を飛ばす。この巨木もはるか昔は小さな種だった。あの場所を選んで芽を出し、枝を伸ばした。やがて木の周りにキャンピングが建ち、枝の下にキャンプ場が集うようになった。湖畔の木々が減っていく中、コゴメヤナギはキャンプに欠かせないシンボルとなっていた▼木は人のように動かない。こと決めた場所に根を張り枝を伸ばす。90年前、山中に蒔かれた種もそれに似ている。幾多の困難を乗り越えながらそこに佇み、たくさんの実りをもたらしてきた。多くの私たちの祈りと奉仕、そして愛情が種を枯らすことなく育んだ。種は良い地に蒔かれたのだ▼100周年を迎えても、周りが変わっても、山中は良い地であり続けたい。90周年を機に寄せられる愛情の数々に触れ、山中への思いを新たにしている。（野外教育センター 星野太郎）

人の交流を軸に20年

東京 Y M C A パートナリーシップ



北京で行われた協議会。前列右から3番目が北京 Y M C A 会長の蔡葵氏、2番目が副総主事の馮培錦氏。

10月30日～11月2日、北京リーガルホテルで東京 Y M C A パートナリーシップ20周年記念会が開催された。東京 Y M C A からは勝田正佳評議員会長、寺門文雄財団監事、井口保雄国際委員、淺羽俊一郎国際委員、廣田光司総主事、菅谷淳財務部主任主事の6名が参加した。

北京 Y M C A からは蔡葵（サイ・クワイ）会長、馮培錦（フエン・ペイジン）副総主事を始め、理事など7名が加わった。2日目にはシンポジウムが行われ、20年の歩みを振り返るとともに、人的交流を主軸とするパートナーシップのさらなる強化、新しい企画、新しいプログラムへの提案などについて自由に話された。

両 Y M C A のパートナーシップが締結されたのは1992年11月17日。北京 Y M C A から、リーダーシップ養成と交流プログラムへの協力要請が東京 Y M C A にあり、交流が始まった。1995年から北京 Y M C A が行っている貧困地区の小学校への援助協力活動が本格化し、東京 Y M C A はこれを支援した。また北京 Y M C A 創立90周年の年である1999年には新会館の落成式が行われ、東京から35名もの役員、委員、職員が式典に参加した。その後も上鎮小学校への文具支援、スタッフの研修

・交流、社会体育・保育専門学校学生の泳指導者派遣（写真 N O L I T A センター）などで現在に至っている。特に水泳の指導法では、指導者も共に水に入る日本の方式が好評を得て、利用者が倍増したとの実績もある。

蔡会長は挨拶の中で、北京 Y M C A が取り組んでいる社会問題について次のように述べられた。北京市の人口はこの10年で約3倍になったが、それは北京以外からの出稼ぎ労働者によるもので、その住居、子どもの教育環境が極めて悪い。北京 Y M C A は彼らの健康活動、教育サポート、障がい児・者ケア、高齢者活動を行っている、とのことであった。

自由討論では、さまざまな議論やアイデアが話された。その中で、1992年に締結したパートナーシップの中で、その住居、子どもの教育環境が極めて悪い。北京 Y M C A は彼らの健康活動、教育サポート、障がい児・者ケア、高齢者活動を行っている、とのことであった。

観光プログラムでは常に通訳のスタッフが随行し、天安門、故宮、万里の長城などを訪れた。東アジアにある Y M C A として、友好関係を強固にし、私たち一人ひとりが平和の架け橋となることが重要であると感じた訪中であった。

（財務部 菅谷淳）



北京 Y M C A 本館。本部があり、職業訓練なども行っている。5階から11階はビジネスホテル。



北京 Y M C A が受託運営している N O L I T A センター施設があり、毎年東京 Y M C A 社会体育専門学生が実習に訪れている。水泳指導が親切丁寧だと好評で、キャンセル待ちが多い。

ソウル Y M C A 110周年

日韓の歴史を認識、さらなるパートナーシップへ

ソウル Y M C A が創立110周年を迎えた。東京 Y M C A からは元総主事井口延雄氏、国際委員の神保伊和雄氏、副総主事堀口廣司氏が

出席した。

10月27日には、ウエルカムランチョンがタラゴンキヤン場で開催された。記念礼拝と職員、ボランティアの皆さんによるバーベキューの昼食、招待された日本（東京・名古屋・大阪・北九州・同盟）、台湾（台北・台南）上海、香港、シンガポール、スリランカ、ホノルルの Y M C A とソウルの皆さんとの友好と交流の場であった。

その場で、東京 Y M C A を代表して井口延雄氏が韓国語で祝辞を述べた。ソウル Y M C A とソウルの皆さんとの友好と交流の場であった。

ソウル Y M C A の歴史は1903年10月28日、皇城（ファンソン）基督教青年会が発会したことから始まる。1906年には、在日本東京朝鮮 Y M C A（現在の在日韓国 Y M C A）が設立された。1910年に韓国併合となり厳しい状況に置かれていく。皇城 Y M C A は、民族運動の拠点ともなり1919年には在日本東京朝鮮 Y M C A 会館

で2・8独立宣言が宣言され、3・1独立運動へ繋がっていく。「日本 Y M C A 基本原則」にある「アジアの永年の交流を感謝され、また昨夏に石巻で、韓国 Y M C A 青年ホランティオを受け入れたことに関しても謝辞が寄せられた。

ソウル Y M C A の歴史は1903年10月28日、皇城（ファンソン）基督教青年会が発会したことから始まる。1906年には、在日本東京朝鮮 Y M C A（現在の在日韓国 Y M C A）が設立された。1910年に韓国併合となり厳しい状況に置かれていく。皇城 Y M C A は、民族運動の拠点ともなり1919年には在日本東京朝鮮 Y M C A 会館

前橋 Y M C A 50周年 多くの青年を育てて

前橋 Y M C A は1963年9月14日に設立されて以来50年間、サマーキャンプ、スキーキャンプ、定例野外活動、障がい児（自閉症児・軽度発達障がい児）支援活動、チャイルドケア、サッカー、野球クラス等、野外教育とコミュニケーション活動を行ってきた。

前橋市内の国領町会館と旧宮城村の赤城キャンプ場の2ヶ所を拠点にしており、群馬大学をはじめ群馬県内から多くのホランティオリーダーが集まって活動している。キャンパーが社会人と

なり、理事や常議員になるなど、50年間に多くの人材を輩出してきた。職員は代々、東京 Y M C A から出向して運営にあたっている。

11月9日（土）の記念式典には、関係団体、近隣 Y M C A から100余名が駆けつけた。白石昭夫理事長による奨励、堀口廣司（東京 Y M C A 副総主事）による講演「ぐんま Y M C A を考える」があり、懇談を楽しんだ。現在申請中の公益財団法人格取得に向けても、新たな結集の時となった。

（副総主事 堀口廣司）



東京 Y M C A から記念品として渡辺貞雄氏の版画を贈呈した（＝1面写真）。写真左からソウル Y M C A 会長 安昌遠氏、東京 Y M C A の井口延雄氏、堀口廣司氏、神保伊和雄氏

東京 Y M C A から記念品として渡辺貞雄氏の版画を贈呈した（＝1面写真）。写真左からソウル Y M C A 会長 安昌遠氏、東京 Y M C A の井口延雄氏、堀口廣司氏、神保伊和雄氏

その場で、東京 Y M C A を代表して井口延雄氏が韓国語で祝辞を述べた。ソウル Y M C A とソウルの皆さんとの友好と交流の場であった。

ソウル Y M C A の歴史は1903年10月28日、皇城（ファンソン）基督教青年会が発会したことから始まる。1906年には、在日本東京朝鮮 Y M C A（現在の在日韓国 Y M C A）が設立された。1910年に韓国併合となり厳しい状況に置かれていく。皇城 Y M C A は、民族運動の拠点ともなり1919年には在日本東京朝鮮 Y M C A 会館

で2・8独立宣言が宣言され、3・1独立運動へ繋がっていく。「日本 Y M C A 基本原則」にある「アジアの永年の交流を感謝され、また昨夏に石巻で、韓国 Y M C A 青年ホランティオを受け入れたことに関しても謝辞が寄せられた。

ソウル Y M C A の歴史は1903年10月28日、皇城（ファンソン）基督教青年会が発会したことから始まる。1906年には、在日本東京朝鮮 Y M C A（現在の在日韓国 Y M C A）が設立された。1910年に韓国併合となり厳しい状況に置かれていく。皇城 Y M C A は、民族運動の拠点ともなり1919年には在日本東京朝鮮 Y M C A 会館

ソウル Y M C A の歴史は1903年10月28日、皇城（ファンソン）基督教青年会が発会したことから始まる。1906年には、在日本東京朝鮮 Y M C A（現在の在日韓国 Y M C A）が設立された。1910年に韓国併合となり厳しい状況に置かれていく。皇城 Y M C A は、民族運動の拠点ともなり1919年には在日本東京朝鮮 Y M C A 会館

親と子のハーモニーコンサート

0歳児にも本物の音楽を



子どもたちに本物の音楽を聴かせたいと、「0歳からの親子のハーモニーコンサート」が11月16日（土）、玉川聖学院谷口ホールを会場に開催され、約450人の親子が来場した。主催は東京 Y M C A チャイルドケアセンター。園児数20人の小さな保育室だが、在園児・卒園児の

子どもたちが本物の音楽を聴かせたいと、「0歳からの親子のハーモニーコンサート」が11月16日（土）、玉川聖学院谷口ホールを会場に開催され、約450人の親子が来場した。主催は東京 Y M C A チャイルドケアセンター。園児数20人の小さな保育室だが、在園児・卒園児の

Y M C A / Y W C A 合同祈禱会

弱者を切り捨てない「賢さ」

祈禱週で貴かれている思いとは、「正義と平和の実現のために私達自身が変革となる」ことである。何かを変えたいと願う時、私達はとくく他人に変化を期待してしまうものだが、本当の賢さが与えられ、私自身が日々の生活の中で変わっていくような祈りたい。神様の求める「変革」へと小さくとも一歩ずつ歩む仕事をしたいと思う。（インターナショナルスクール 依田あゆみ）

されているが、それが本当の賢さなのだろうか？ 愚かな乙女達はもしかしたら油を注意する余裕のない社会的弱者だったかもしれない。利用価値があるかどうかで人間を判断する世間の基準とは異なり、神の国では、愚かな乙女と共に祝宴に与るため、社会的弱者を切り捨てずに一緒に生きていくための「本当の賢さ」が求められているのではないだろうか。そのような問いかけのメッセージをいただいた。

11月14日、在日本韓国 Y M C A を会場に、東京 Y W C A、在日韓国 Y M C A、東京 Y M C A の合同祈禱会が守られた。神学者の山口里子氏をお招きし、今年の合同祈禱週のものである「神の求める『変革』となる」に寄せて、新約聖書『マタイによる福音書』25章1～13節の「十人の乙女の例え話」について奨励をいただいた。

これは、婚礼の席で灯の油を切らしてしまった愚かな乙女たちが、祝宴から締め出されてしまうという例え話だが、「愚かな乙女にならぬよう準備を怠るな」という教訓として理解されることが多い。しかし、最近の聖書学の解釈はこれと異なる。1節の「天の国は次のように例えられる」という訳文を、「天の国をこれと比べてみなさい」という意味に捉え直す見方が変わってくる。愚かな乙女達を追い出した花婿や、油を分けてあげなかった賢い乙女達が世間一般では「賢い」と

山中湖90周年記念感謝会 100年に向け 思い新たに



山中湖センターは、1923年に開設された日本で最も古い組織キャンプのための施設です。11月16日に開設90周年を記念して感謝会を行いました。秋晴れの山中湖センターには約50名が集い、礼拝を捧げた後、

講演、夕食会と90周年を感謝する時を持ちました。記念礼拝では、山中家族キャンプチャプレンの堀光雄牧師（日本キリスト教団）より説教いただきました。そして記念講演は「山中湖畔の90年 ユー

会員協議会 ソシアスフォーラム

本年度テーマ「ユースを育てるYMAA」

状態となり、各箇所に塗装が施され、全体が見違えるほどきれいになりました。施設整備のワークキャンプをしてくださった東京サンライズワイズメンズクラブと会員部有志の皆さんには感謝状が手渡されました。

茶話会や記念夕食会も行われ、懐かしい映像やキャンプソングを演奏しました。山中で交わり、山中で育ち、山中を愛する人たちが、それぞれの山中に思いを巡らせる楽しいひと時でした。最後に、記念募金へ

のさらなる協力も呼びかけられ、100周年へ向けてさらに山中を輝かせたい、皆でそう願いを合わせ感謝となりました。
(野外教育センター 星野太郎)



ライズワイズメンズクラブは、25年にわたり山中湖をサポートしている。この日もブルトッパによる車椅子が寄贈された。

近年毎年1回開催している会員協議会「ソシアスフォーラム」ですが、今年は山中湖センターが90周年を迎えたため、その感謝会と合わせて、山中湖センターで1泊2日で行いました。そしてまたYMAAが大切にしてきた知育、徳育、体育、社交の価値が多くの青年の中で実を結び、YMAAの枠を超えて次の世代に継承されていることを改めて学びました。

Aが時代に即した形で、多くの人々を巻き込みながらダイナミックにその働きを展開していくために、今後が必要なのか、何ができるのか、真剣な意見交換がなされ、会員と職員が知恵と力を合わせていくYMAAの原点を捉え直す機会となりました。さらに夜も深まるまで様々な話がはずみ、楽しい交わりの時が続きました。

2日目は、廣田光司総主事の奨励による朝の集いの後に、雪をかぶった富士山と澄んだ湖の美しさに山中ならではの恵みを満喫。朝食後はスウェーデン生まれのニュースポーツ・クップを高橋伸氏にご指導いただき、年齢も体力も問わずに楽しみ、身体と心を活性化させました。参加者各々が新しい出会いと発見を得て、無事に帰路につきましました。

「そこでマリヤが言った『わたしは主のはしたと』Let it be to me according to your word」とあります。東京YMAAの居場所プログラム「ニギハヤヒ」はこの言葉「新約聖書『ルカによる福音書』1章38節」が来日してピートルズ世代は昔の興奮がよみがえってきたのではないのでしょうか。ピートルズの数あるアルバムの中に「レット・イット・ビー」があります。43年前の作品です。「レット・イット・ビー」の和訳は「そのままだにしておきなさい」とか「あるがままに受け入れなさい」とさ

れませんが、聖書38節の後

今年もクリスマスのシーズンが来しました。教会では22日の聖日にお祝いしますが、クリスマスが12月25日に始まり1月6日の公現祭に終わる国もあります。このクリスマスの時を単にプレゼン

その答えは経済優先の社

マリヤの覚悟を思う時

すべての人を一つにしてください

勢です。私たちは神様から何を問われているのでしょうか。3.11以降、日本人は新たな問いの前に立たされています。よい新年をお迎えください。
(総主事 廣田光司)

神様からイエス様をプレゼントしていただいたクリスマス、そのことを自覚する今年のクリスマスの時としたいのです。クリスマスおめでとう

山中湖チャリティコンサート

飯靖子さん 飯頭さん 親子で共演

山中湖センター90周年施設整備募金活動のため11月8日、東京YMAA理事でオルガニストの飯靖子（いせいこ）さんとご子息の頭（あきら）さんによるチャリティコンサートが開かれました。会場となった。曲目は、バッハの「幻想曲とフーガ」などで、その壮麗な演奏に、「継続して開催して欲しい」との声もあがりました。

チケット280枚の売上を含めた益金約93万円は山中湖センター施設整備のために用いられます。



エレクトーンの生演奏に合わせて踊る。毎回、講師によるダンス指導があり、誰でも楽しめる。

障がい者と共に 社交ダンス

ユニークダンス・パーティー 30周年

『第60回YMAAユニークダンス・パーティー』が11月17日（日）、江東区の「ディアラこうとう」で開か

催されました。「ユニークダンス」とは手や足または視力などが不自由な人たちが「ディアラこうとう」で踊り方

り方で健常者と共に楽しむ、ユニークな社交ダンスです。1983年3月18日から年2回開催し、今年で30年が過ぎました。

30年前は、障がいのある方は外出もままならぬ世の中でした。バリアフリーが完備されていない時で、そのような、福祉関係が未だ不十分なときに「障がい者と共にダンスを楽しむ」プログラムを私たちは立ち上げたのです。この様なプログラムも少なかったため、私たちのパーティーには送迎者も含め、多くの方が参加

されしました。東京むかでワイズメンズクラブの主催で第20回（10年間）まで続け、21回目より東京YMAAとの共催で今日に至っております。

ダンスの指導は第1回よりユニークダンス研究会代表・炭山眞理子先生にお願いし、毎回初心者の方でも踊れるようレッスン時間を設けていますので、すぐにダンスが楽しめ、ダンスを踊れなかった私たちも今はユニークダンスを楽しく踊れるようになりました。音楽は毎回、生のエレクトーン

演奏をお願いしています。最近では公共のプログラムが充実し、選択肢が多くなったため、参加者の減少が続いています。今までの我々の事業が必要ない世の中になったのか、嬉しくもあり少し寂しくもありま

す。これからも、無理せず、手を抜かず、楽しくパーティーを開催していきますので、1人でも多くの方のご参加をお待ちしております。次回は4月27日（日）13時半～16時半。会場は東京YMAA東陽町センター。参加費は1000円、問合せは3615-15577担当／堀口まで。
(東京むかでワイズメンズクラブ 櫻井浩行)



記念夕食会では、山中湖センターを愛する方々が集い、旧交を温めた。

「そこでマリヤが言った『わたしは主のはしたと』Let it be to me according to your word」とあります。東京YMAAの居場所プログラム「ニギハヤヒ」はこの言葉「新約聖書『ルカによる福音書』1章38節」が来日してピートルズ世代は昔の興奮がよみがえってきたのではないのでしょうか。ピートルズの数あるアルバムの中に「レット・イット・ビー」があります。43年前の作品です。「レット・イット・ビー」の和訳は「そのままだにしておきなさい」とか「あるがままに受け入れなさい」とさ



パイプオルガンを弾く飯靖子さんと、ピアノを奏でる飯頭さん。昨夏に亡くなった息子のMC A主事・飯忍さんの夫人である。キャンプを愛した忍さんの継いで演奏くださった。